県内の情報連絡員報告

石川県中小企業団体中央会

■平成３０年８月分

平成３０年８月期において

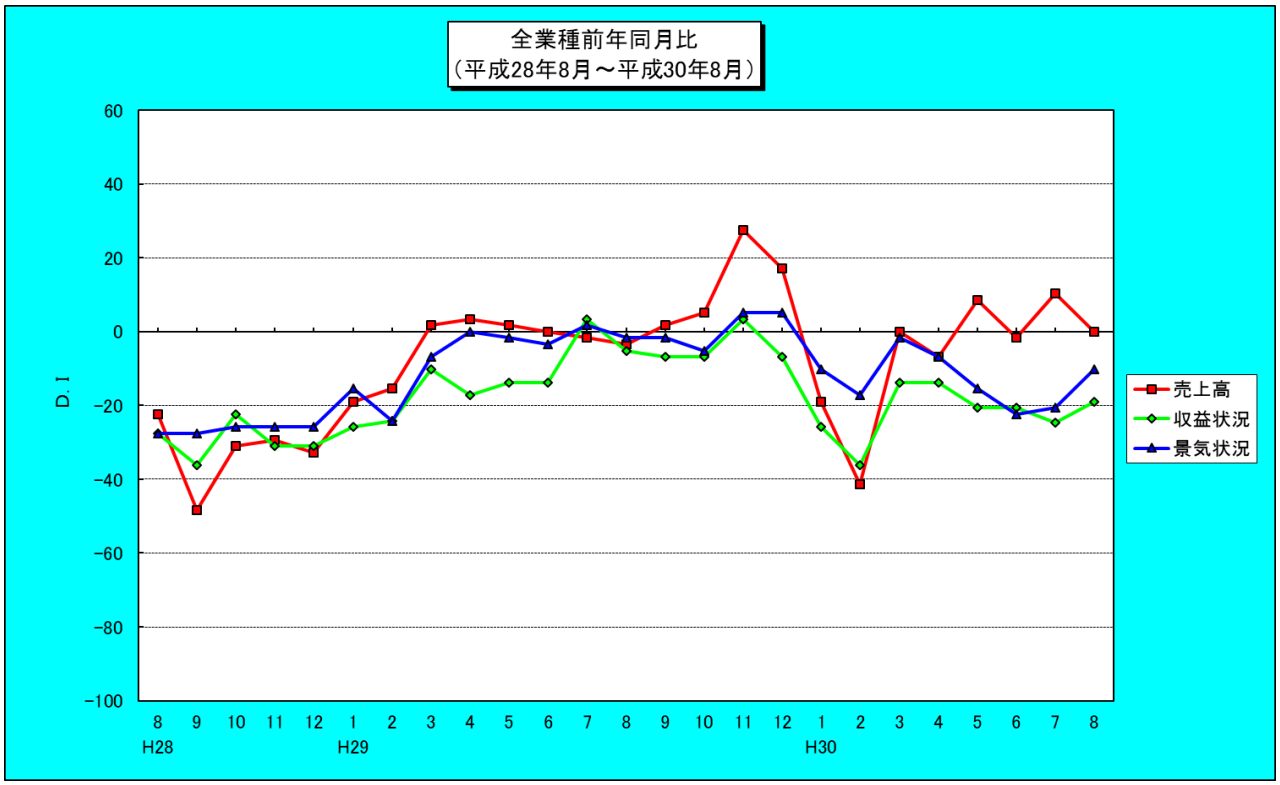
○ ＤＩ値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、９項目中で４項目が上昇、２項目が横ばい、３項目が悪化であった。売上高と景況感で傾向が分かれたものの、全体としてはおおむね横ばい傾向であると言える。先月に引き続き、猛暑や豪雨の影響が大きかった。

○ 製造業においては、４項目が悪化、３項目が上昇、２項目が横ばいであった。燃料費や原材料費、人件費等の高騰が続いており、企業の採算性に悪影響を及ぼしている。悪化していたのは猛暑の影響で売れ行きが鈍かった菓子製造業、経費の高騰で採算性が大きく低下している繊維同製品製造業や木材・木製品製造業、自然災害による物流の停滞があった出版・印刷業、災害の自粛ムードで売上が落ちている陶磁器製造業などであった。好調であったのは受注好調で高操業度が継続中の一般機械器具製造業や鉄鋼・金属製品製造業、南加賀地区の新幹線延伸工事で出荷増が続いている砂利販売業や生コンクリート製造業などであった。猛暑による生産性の低下や客先の連続休暇の長期化で売上減したなどの声も聞かれた。

○ 非製造業は、２項目が悪化、２項目が横ばい、４項目が上昇であった。先月に引き続き、猛暑や豪雨の影響が大きく、多くの業種で悪影響を及ぼした。悪化していたのは、猛暑や豪雨などで消費者の外出控えにより客足が落ちた能登や竪町の商店街、加賀地方の旅館・ホテル業、土産品小売業、衣料品小売業、悪天候で入荷が少なかった水産物小売業、天候のため生産性が低下した板金工事業、取引先の夏季休業が長かったため売上が減少した一般貨物自動車運送業などであった。好調であったのは、エアコンが盛況であった電器製品小売業、豪雨などでキャンセルがあったもののそれ以上にインバウンドや観光等来客が増加した能登及び金沢の旅館・ホテル業、お盆期間中に賑わいを見せた近江町の商店街などであった。

○ 最低賃金引き上げの影響について、全業種では、「影響はない」（51.0%）が最も多く、「悪い影響」（45.1%）、「良い影響」（3.9%）が続いた。2年前の8月に、同様に最低賃金の引き上げについて調査した際（2年前最低賃金：757円）には、「影響はない」（87.5%）、「悪い影響」（10.4%）、「良い影響」（2.1%）となっており、2年前に比べ、最低賃金引き上げによる影響は大きくなったと言える。業種別でみると、製造業においては、「影響はない」が57.7%で最も割合が高かったが、非製造業では、「悪い影響」が52.0%と最も高く、業種間でやや違いがでた。「影響はない」と回答した理由としては、最低賃金水準以上で雇用しているとの回答が大半で、他に人数が少数で影響はないなどの回答があった。「悪い影響」と回答した理由は、人件費増加による利益減少との回答が大半で、他に賃金価格上昇分が売価に反映できないなどであった。
また、政府で実現目標に掲げている最低賃金1000円となった場合の影響については「悪い影響」（83.0%）が最も多く、「影響はない」（17.0%）となった。こちらについては業種間での回答にあまり差はなかった。「悪い影響」とした理由は、人件費増加による利益減少が最も多く、次いで、賃金価格上昇分が売価に反映できない、正社員の給与にも影響するなどが続いた。賃上げは物価上昇とのバランスが重要であり、物価上昇が伸び悩んでいる現状での過度な賃上げは、上昇分を販売単価に反映できず、中小企業にとっては大きな負担となる。政府が目標とする最低賃金1000円には企業の生産性の向上も重要だが、物価上昇を伴う景気回復が求められているようである。

◇全業種の前年同月比推移（H28.8～H30.8）



※本調査は、**当会に設置している情報連絡員**〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役職員**５８名に委嘱**〕**による調査結果**です。調査は、情報連絡員が所属する組合の組合員企業の全体的な景況(前年同月比)です。

	集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	食料品	調味材料製造業	売上は単月で▲１％、累計で▲３％と、意外にも昨年と変わらないレベルであった。この炎暑で食欲も奪われ、大幅なダウンを予測していたが、「食は要」と改めて実感出来、安堵できた。大雪、炎暑、台風と異常気象が続き、今まで他県の人にかついでもらって、何とか難を軽くしてもらって来たが、自然現象にお目こぼしがあるはずもなく、少しだが分担を請け負ったという事か。野菜の高騰があったように、回りまわって原料事情に影響が来ないことを祈るばかりだ。現在は何とか持ち合いで凌いでいる。
		パン・菓子製造業	「売上高」「収益状況」とも減少。酷暑の影響が街中の消費低下につながったと思われる。金沢駅での売上も減少した。
	繊維工業	織物業 （加賀方面）	産地として業績回復している企業が見られるが、アメリカ、中東輸出は非常に不透明で悪影響を受け続けている。電力の自由化の動きが見られコスト低減につなげた企業もあるが安定電力供給に不安があり安易には踏み切れない状況で、原材料の生糸やポリエステルの高とまり、生産関連資材、流通コストの高騰により採算性は非常に厳しい状況が続いている。
			対前年同月比生産（絹織物15%減少、合繊１%減少）全体で１%減少。絹織物の減少要因としては調整がされているため。収益状況は物件費用により、低下が見られる。
			今年４月からの電気料金の引き上げ、運賃値上げが影響し、コストアップとなっている。
		その他の織物業 （染色加工）	売上高は前年同期と比較して20%ほど減少している。収益状況も大変厳しい。近年の呉服市場におけるフォーマル品の需要減少に伴い大変厳しい状況へ向かっている。また、絹の価格も上昇しているが、価格転嫁できていない。生産量に関しては減少傾向に歯止めがかからない状況にある。現状ではすぐに回復する見込みは立っていない。
		ねん糸等製造業	仮撚り関係は「売上高」及び「収益状況」共にある程度安定している。合繊関係は90%程の稼働率で生産しているが、加工賃が上がらず相対的に売上利益はマイナスになっている。要因として、中国産業の高度産業への移行及び日本国内同業者の減少と思われる。取引環境がまだまだオープンでないように思う。
	木材・木製品	製材業、木製品製造業 （加賀方面）	８月度売上げは昨年と比較すると38%上昇している。売上に対しての利益高は昨年より大きく低くなっている。７月と同じく加工代の少ない物が多かったことや光熱費の値上がり為である。（粗利の何も無いものが16%含まれている。４月より値上がり電気で約10～15%、重油で約45%値上がりしている。）５月の大型連休明けよりそれなりに仕事が増えてきている。８月に入っても公共事業、東京オリンピックからみの仕事もそれなりに仕事が継続している。
		製材業、木製品製造業 （能登方面）	30年８月取扱量2,488㎥（＋604㎥）、売上高32,002千円（＋1,670千円）、平均単価12,864円（－3,236円）。今月は公共事業の売り払い材の入荷があり、取扱量・売上高が昨年を上まったが、档材が昨年より少なく、平均単価が下落した。今月は公共事業の売り払い材の入荷で、取扱量・売上高が増えたが、低質材が多く平均単価を下げた。秋需要に市況の回復を望みたい。
		製材業、木製品製造業 （金沢方面）	８月度に関しての報告。日々の猛暑に工場従業員は大変であった。受給面ではなんとか自社でこなせる受注量となってきた。ただ、この先についての見積り量は例年より多い状態である。
	印刷	印刷業	８月は、先月と同様に売上高、収益状況共に低調であった。特に、地震や台風など自然災害による、物流の停滞などの影響もあり、用紙などは手持ちの在庫管理に気をもむ状況が出てきている。社会の流れとしてＡＩ、ＩＯＴの普及・拡大が進んでおり、益々印刷物を必要としない社会構造へあらゆるものが進んでいるとみられる。しかし、昨今頻繁に発生する地震や天候異変による災害において、真っ先にダウンする社会インフラのひとつに電力がある。電気が無いと、スマホもパソコン、ＳＮＳ環境もストップしてしまうのも現実である。情報のデジタル化は、緊急時に電力がストップすると全く利用できないというボトルネックが存在する。しかし、印刷物は明かりがある限り、最低限の情報を人に伝達できるものであり、オールマイティではないが緊急時の有用性を評価する必要があると思っている。
	窯業･土石製品	砕石製造業	８月の組合取扱い出荷量は対前年同月比、生コン向け出荷は23.0%増、合材用アスファルト向け出荷は25.2%の増、特需による出荷量も62.4%増となり、全出荷量では23.9%の増加となった。
		陶磁器・同関連 製品製造業	売上高は、約10%のダウン。収益状況も大幅ダウンと考える。原材料の値上げに、異常なまでの気候状況と、今年は、自然災害が毎月のように入れ替わりたち替わり発生している。贅沢品と言われる九谷焼は、今までも自然災害が起こる度に自粛ムードの中、売上を下げてきた。しかし、一ヶ月もすると少しずつ回復基調へと向かう傾向があった。ただ、今年の場合は、毎月の事なので、忘れかけた頃には、次の災害と続く為、中々回復しないのが、現状である。
		生コンクリート製造業	平成30年８月末日の県内の生コン出荷量は、前年同月比112.6%(組合員外会社を除くと109.6%)となった。各地区の状況は、前年同月比で南加賀地区が117.8%、金沢地区が115.6%、鶴来地区が169.8%とプラス値となり、その他の地区は、羽咋鹿島地区が96.6%、七尾地区が28.9%、能登地区が77.9%とマイナス値となった。南加賀地区のプラス要因は前月同様、北陸新幹線延伸工事の為のものであり、金沢地区においては公共工事並びにホテルの新設工事分である。８月末日の県下生コンクリート出荷量の官需、民需(組合員外社を含む)の前年同月比は、官公需113.4%、民需111.4%となっている。
		粘土かわら製造業	盆休暇を含めて、まとめて今時期に工場稼働を少なくした。売上高は減少したが工場に係る費用も若干減少したことで収益状況の悪化も少なく抑えられた。屋根の修理・葺き替えは需要があるが、対応すべき職人数が不十分である。
	鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	全体に景況は良く、受注・売上げも順調に推移し、引き合いが増加傾向から設備投資して省力化に意欲的な組合員がある。一方で、原材料価格の上昇や依然として人手不足の声が多く聞かれる。
		非鉄金属・同合金圧延業	先月同様、観光客が高水準で推移しており、売上げは例年並みだった。販売は例年並みで、生産部の職人は相変わらず厳しい状況が続いている。
		鉄素形材製造業 （銑鉄鋳物の製造）	８月度は対前月3.9%減、対前年同月比は3.5%プラスと依然として高い操業率が続いている。向け先別では前月同様で自動車、産機、工作機械、は好調建機、インフラは横ばい傾向、織機向けは低調のようである。世耕プランに実現に向けた活動を推進中であるが、まだ取引先の50%以下であるが、支払いが手形から現金化になってきている。未使用型の廃却については進んでいるが、型の保管料についてはまだ10%程度でこれから。これから労務費アップに伴う価格への転嫁が課題である。
		鉄素形材製造業	８月度はお盆休みもあり、稼働日数が少ないうえに今年はまれにみる猛暑日が続き、生産性が低下した。よって組合全体では売上、収益とも減となっている。建機業界は、国内は自然災害による需要が見込まれると思われる。世界的には需要の衰えは無く、10月以降も強気な生産が見込まれる。
		一般産業用機械・装置製造業	前年対比でみると、猛暑の影響もあるが、電気料金の値上げが経費増の要因となっている。売上に関しては、ものづくり補助金の採択が終わり、ストップしていた物件が動き始めた。受注は堅調に推移している。

	集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	当組合は鉄工関係の中小企業100社で構成されている団体であるが、業況については扱っている業種によって多様である。受注の状況については依然として好調に推移している企業が多く、月単位で過去最高の売り上げを記録したところもある。しかし、アメリカのトランプ政権がとっている対外強硬外交のため、欧州・中国・イランなどとの取引関係が不安定化する恐れもあり、生産の拡大には慎重にならざるを得ないところも出始めている。とりわけ、ただでさえ人件費の高騰などから輸送コストが高止まりしている現状にあって、イラン産の原油の輸入が停止することから、ガソリン価格が上昇することが予想され、輸送コストや電気料金等がさらに上昇し、収益の悪化につながることが懸念されている。
		機械金属、機械器具の製造	著変なし。横ばいながら安定している。
		繊維機械製造業	組合員での一般機械関連部品加工については、前月比では0.7%微増、昨年度比では19%増の水準。一方繊維機械関連では前月比2.6%増、同じく昨年度平均比では27%増のレベルとなった。いずれにしても負荷の高い水準にあると判断。業界全体の繁忙は継続しており、当面はまだ続くものと判断している。刹那的には現状の仕事をこなすのに一杯である面もあるが、一部仕事の取捨選択も見られてきている。他方、同時に設備投資なども活発であり、生産性の向上・工程見直しなど、自助努力で進めている企業も出ている。そういう意味では、今後格差や統廃合なども進む要因もみられる。また人材確保も厳しいままであり、海外からの人材調達にシフトしてきている組合員もある。
		機械工作鈑金加工	工作機械の売上前月比は93.0、前年同月比が105.3となっている。月別の売上げ総額の推移を振り返ると今年３月での売上高をピークに緩やかに下がってきている。４月以降に前月比が６月を抜いて100を切っている。しかしながら、前年同月比においては今年入ってからまだ100を超えている。下がっているものの売上げの水準は昨年並みとしている。前年同月比においては内需が120.5と高い水準を保っている。海外での原油高騰、原材料高騰が影響しているのではないかと考えられる。国内では、まずは2020年のオリンピックまでこのまま推移してくれないかという期待感もある。ただし、昨年３月ごろからの好調が長く続いている事、海外での後退感、さらには台風、地震という自然災害や自民党総裁選や消費税アップなど懸念材料が絶えない。今年度後半は少々落ち込みがあるものと構えておいたほうが良さそうである。
		機械器具及び其の他金属製品の製造	売上は前月比と前年同期比から４社良くなり、資金繰り採算性・業績状況は好調を堅持している。仕入れ単価の上昇や人手不足・在庫が増え、悪影響が出てくるのではないか懸念している。（業績の悪い企業は見当たらない。）輸送機器は、売上高は前月期比良くなっている。月によって業績変化が出てきている。電気機械は、前月比から見たら売上高・採算性・業績状況維持している、季節的な生産の液晶部品は全体的に良くなっている。チエン部門は産業用順調、全般的に受注が安定である。繊維機械はオートワインダー・革新紡の生産は前月から変わらない。業績についても良くなっている。
		機械金属、機械器具の製造	売上・収益共好調に推移。工作機械関連は好調を継続。繊維機械関連は中国市場で上向き。建設機械関連は中国市場で若干下向き。設備の更新、建屋の修理を実施している企業が見受けられる。
		機械金属、機械器具の製造又は加工	売上高は対前年同月比11%強の伸びとなり、第２Ｑから第３Ｑに向けて、再び増産の見込みである。組合員企業は各社とも高操業度継続中であり、本来ならば収益状況も好転するところだが、見込みに対して計画達成は困難。先週の台風21号の影響で、取引先のラインが半日停止。併せて組合員企業も操業を停止させたところが多く、増産基調の中、生産遅れ挽回も今後の課題となる。下期に向けて、若干の生産調整があると予想していたが、情報によれば第３Ｑは更に受注が増加する模様である。組合員企業は適宜、合理化投資は実施中だが、人手不足もあり大幅な増産投資にはなっていない。このため、今後継続して増産が続けば、需給ギャップが更に進み、生産活動に支障を与える可能性もあることが多いに懸念される。
	その他の製造業	漆器製造業 （能登方面）	輪島塗のような伝統工芸品への関心が薄れてきている。また、業界全体の勢いがなくなってきている。いろいろな情報を発信しているが、まだまだ努力が足らないのか、特定な方々は興味を持っていただいているが、その他の方々への広がりに繋がっていない。
		プラスチック製品製造業	８月は客先が連続休暇を長くとる傾向が顕著になってきており、10日以上の休暇があり、販売額としては伸び悩んでいる。今年の猛暑によるエアコンや扇風機などの季節商品が好調と聞いているが、８月後半から少し物の動きが出てきている。原材料については、７月以降上昇するなど、原価構成に影響を及ぼす材料が多くなってきている。また、輸送業者などが人手不足からこれまでの集荷業務ができなくなるなどの条件付加がでてきており、そのため人員の増加等を余儀なくされている。客先の一部では、材料の価格上昇（特にナイロン）を認めていただく様な流れもあり、今後若干収益改善は見込めそうである。
非製造業	卸売業	事務機・事務用品卸売業	観光客の増加により、日用品のようなものよりも、その場所でしか買えないものが消費されていることが多かった。猛暑により、地元客が少なかったように感じる。
		一般機械器具卸売業	住宅市場の回復が今一歩であることに加え、非住宅市場も官公需、民間ともに需要の端境期にあたり低調に推移、売上、収益ともに前年を下回っている。民間のホテル、マンション建設や商業施設のリニューアル等の先行きに期待している。
		水産物卸売業	近海物での青物、ハマチ、ワラサや県外のスルメイカが少なく、入荷量は対前年に比べると減少したが、平均単価があがり、対前年比102.6%と増加になった。
		各種商品卸売業	洋装品卸売りでは８月は通常秋・冬物商品の取り扱いとなる。今年は、例年より気温が高く猛暑日が多く続き、厳しい環境にあるが、全般的な売り上げは昨年並みを確保。
	小売業	燃料小売業	売上高は昨年対比10%マイナス、収益状況も暑すぎて洗車収益が悪くマイナスとなった。マイナス要因は原油高でガソリン単価の高騰により、買い控えが見られるため。非組合員の不当廉売により収益が悪くなっている。大切なライフラインとしての給油所が存亡の危機に立たされている。
		機械器具小売業	平成30年８月度、金額は121%と４カ月連続の成長性と単月として大きく前年を上まった。大きな要因として、猛暑が長引きルームエアコンの販売が好調を維持し111%と二桁成長と12月１日からスタートする新４Ｋ衛星放送を前に各メーカーが４Ｋ有機ＥＬと４Ｋ衛星放送対応チューナの提案活動の強化によりカラーテレビ全体台数は133%、内４Ｋ対応テレビは149%と全体の販売金額に大きく寄与した。ルームエアコン販売が継続して好調で工事を伴う商品として収益にも貢献。また、家事・調理商品の掃除機134%、電子レンジ120%、炊飯器135%と消費拡大の８月度であった。人材は６月以降、採用が出来ておらず一部の小売店での人手不足になっている。
		男子服小売業 婦人・子供服小売業	夏物好調で後半から秋・冬物先買いと言われたが、先月（７月）に引き続き、夏本番を迎えて積極的にイベント（販促）を展開した。ご多分に漏れず猛暑・台風・豪雨等異常気象と重なり、マイナスに転じた。（来店客数の減により、思うように夏物処分に至らなかった。）
		鮮魚小売業	８月は一年で一番販売が厳しい時期である。９月から始まる底引き漁のため、漁師も漁の準備等で出漁せず、入荷が少なく、また夏の気温で高温のため、お客さんの購買が落ちる時節であるが、特に今年は台風と豪雨により天候で混乱して魚介類も少なく入荷が減少し、また、最高気温の連続記録などの天候によって、消費者の購入控えもあり、ここ数年で業況が一番悪い月となった。家庭内調理も減少しており、鮮魚の販売も低調であった。

	集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非製造業	小売業	他に分類されないその他の小売業	暑い日が続き、観光客が少なかった。
		百貨店・総合スーパー	昨年対比83.5%良い兆しがあった分、大変苦しい月となった。猛暑の影響もあったのか、ほぼすべての業種で厳しかった昨年よりも落としている。唯一、飲食店のみ昨年を上回った。こちらも猛暑の影響かと思われる。退店なども無かったため、組合の収入の変化はなかった。ただ電気代の上昇により経費は例年に比べ増加した。また台風などの対応もあり、修繕箇所（漏水）などもあったため修繕工事が増えた。
		農業用機械器具小売業	秋商品が出るピーク時ですが、比較的静か。昨年度に比較して進捗率85%。今年は特に、台風・洪水被害に悩まされている。刈取り寸前の稲田、農作物の被害が大きく、自然相手の農家さんのご苦労を思うと胸が痛い。農家さん相手の組合員企業としても大変な思いで作業にあたっている。
	商店街	近江町商店街	真夏日が続き、暑さによる海水温の上昇やシケの影響で鮮魚の入荷は例年より減少し、青果物では値上がりした物があった。台風の際は流通に遅れがあった。お盆期間中はお客様で賑わい売り上げに繋がった。近江町市場恒例の「絵画コンクール」の開催と市場内に「氷柱」設置（7/12～8/31）をおこない、真夏の氷柱は国内外の来場者に大変喜ばれた。
		輪島市商店街	昨年対比売り上げ94.1%。猛暑日が続き、商店街を支えていただいている「中高年層」のお客様が猛暑の為、買い物の為の外出が極端に控えたので客数が減少して、売り上げが厳しいのが現状である。
		片町商店街	２月と８月は消費の落ち込むところではあるが、その上に８月の酷暑。酷暑が売上に寄与した店舗もあるが、客足が落ちた分だけ、苦戦した店もあるというのが現状。酷暑の影響を受けて売上が下がったところと、酷暑のおかげで売上が上がったところと、業種によって差ができたように思う。来店客数は暑さの為に減少したことは間違いないと思う。アパレル関係でも、セールなどで、うまく夏物衣料を販売できたところは上がっている。
		竪町商店街	非常に天候に左右されやすい商店街であるため、今年の猛暑も、消費的にはマイナスであった。特に建物が古く、長らくオーナーが投資をしないため、雨漏りの店舗が多数出ている。他県にいるオーナーとはコンタクトが取りにくいため、テナントの不満がたまっている。パティオ裏のパーキングやうつのみやなど今後タテマチの近隣にマンション計画が出てきている。また、大工町にホテル建設など、今までの商業環境が大きく変化している。
	サービス業	旅館、ホテル （金沢方面）	対前年度に対して、５%程度稼働は良い。６、７月の状況に比べても、５%程度稼働は好転している。観光、スポーツ関係の顧客が好調である。猛暑、台風の影響以上に観光客を中心に稼働は好転した。北陸新幹線が災害に強いことが実績の維持につながっていると考えられる。
		旅館、ホテル （加賀方面）	台風、豪雨等によるＪＲ西日本始めとした交通機関の運航中止も多く、キャンセルの発生が見られ、売上減少につながった。加えて猛暑日続きで外出控えという声も聞かれた。旧盆に特別設定価格の需要も堅調に発生したものの、リーズナブルな料金設定商品も多く売られ、対前年比としてはマイナス基調だった。
			温泉地全体の宿泊客数は、前年同月比約101.2%とほぼ前年並みの見込みである。８月は例年にない猛暑の影響で外出を控える風潮であったことが旅行の出控えに少なからず繋がった。日中の暑さで散策する観光客もまばらな日が多かったように思う。温泉地全体の集客数はほぼ昨年並みであったが各旅館の昨年との宿泊増減から推測すると、売り上げは旅館によりかなり好不調の差が出ているのではないだろうか。この先の宿泊予約状況も依然として低調なままである。
		旅館、ホテル （能登方面）	宿泊入込客数対前年比105%で増加、売上についても104%で増加した。七尾エリア豪雨で300名ほどのキャンセルがあったが、富山方面の増加と、インバウンド（富裕層のスーパーカーイベント当地開催、台湾報奨旅行実施）の増加により、結果的に増加した。
		自動車整備業	車検需要では、８月まで対前年マイナスと想定する中、登録車で100.1%、軽自動車で98.5%、全体で99.6%、予想以上に持ち直し感が出てきた。新車販売（台数）は、８月も順調で対前年登録車は２カ月、軽自動車は６カ月連続のプラスとなり、全体で104.4%であった。
	建設業	板金・金物工事業	８月の売上及び収益は全体的に、落ち着き感が見られた。その収益の伸び悩みの原因は特にあげると、異常な暑さ、台風の多さ等が原因であったように思う。全体的には高水準で売り上げ・収益が右肩上がりの様ではあるが、県全体で見ると地域差は大きく感じられる。
		管工事業	８月度における「売上高」と「収益状況」は、前年同期と比べ、増加した。給水装置工事の受付件数は、前年同期比＋16%、ガス工事の受付件数も＋52%であった。
		一般土木建築工事業	公共事業では、前年同期に比べ、単月契約件数は、若干増加しているものの、累計契約件数は減少している。また、単月契約金額及び累計契約金額については、減少している。このことから、「売上高」、「収益状況」は昨年同時期に比べ減少していると推定される。年度後半の発注に期待したい。
	運輸業	一般貨物自動車運送業①	お盆による夏休み期間が取引先との関係上、長かったため、８%ほど前年よりも売り上げがダウンしている。さらに燃料費の高騰により、収益は30%ほど減少している。
		一般貨物自動車運送業②	輸送需要は対前年比98.2で減少しているが、売上高は横ばいである。燃料価格は若干値下げ傾向となった。